

平成31年度（令和元年度）基礎学力調査結果の概要について

1 調査の目的

児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能や活用力の定着状況、及び学習・生活状況について把握・分析し、学校における児童生徒への指導の改善を図る。併せて、教員の指導状況等を把握し、指導法の改善に役立てる。

2 調査の対象

(1) 児童生徒に対する調査

○ 教科に関する調査

全公立小・中学校における次の学年の全児童生徒を対象に調査した。

ただし、調査の集計・分析については、各学校対象学年から無作為に1学級ずつを抽出して行った。

区 分	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
実施校数	201校	201校	82校
実施児童生徒数	9,247人	9,857人	9,334人
対象教科	国語・算数	社会・理科	社会・理科
調査問題の範囲	小学校3年生までに学習した内容	小学校5年生までに学習した内容	中学校2年生までに学習した内容

○ 質問紙調査

教科に関する調査における集計・分析の抽出学級（各学校対象学年1学級）の児童生徒を対象に調査した。

区 分	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
実施児童生徒数	4,289人	4,904人	2,519人
調査の内容	学習に対する意識や家庭学習、生活習慣などの状況等に関する内容		

(2) 教員に対する調査

○ 質問紙調査

抽出した小・中学校における教員を対象に調査した。

区 分	小学校	中学校
実施校数	68校	32校
実施教員数	1,089人	704人
調査の内容	授業における指導状況等に関する内容	

3 調査の日時

平成31年4月17日(水)

区分	時限	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
教科に関する調査	1限	国語(40分)	社会(40分)	社会(45分)
	2限	算数(40分)	理科(40分)	理科(45分)
質問紙調査	提出日までに、各学校の状況に応じて実施			

4 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

項目	小学校第4学年		小学校第6学年		中学校第3学年	
	国語	算数	社会	理科	社会	理科
平均正答数(問)	16.9 /26	16.0 /22	21.8 /31	15.3 /24	19.3 /33	18.6 /34
平均正答率(%)	65.2	72.9	70.4	63.9	58.6	54.7
前年度比	+3.5	-2.2	+6.0		-4.1	

※理科は、前年度、全国学力・学習状況調査で実施され、県基礎学力調査では実施していない。

(2) 作問の工夫と調査結果の主な関連

昨年度の調査結果から明らかになった課題や新学習指導要領で求められている力を踏まえ、活用を問う設問において、児童生徒のより深い思考力をはかることができるよう作問の工夫をした。

ア 小学校第4学年 国語

漢字やローマ字の読みなどの基礎的・基本的な事項の設問については、良好な状況であるが、活用力を問う設問、例えば、「主語と述語の関係」の設問では、これまでの主語と述語を抜き出す形から、主語に対して述語を適切に記述する形に変更したところ、本設問の正答率が低下し、新たな課題が見られた。

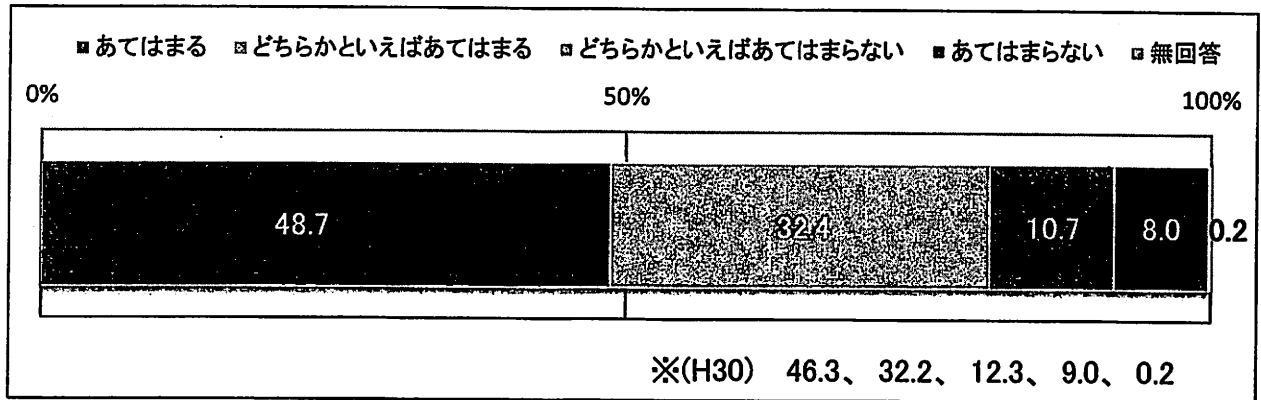
イ 中学校第3学年 社会

歴史的分野に関する基礎的な知識・理解については、引き続き課題が見られる。また、活用力を問う設問、例えば、「近世の日本と世界」の設問では、情報量の多い文献の資料とグラフの資料、それぞれから読み取ったことを相互に関連付けて考察し、適切に表現することについては、引き続き課題が見られた。

(3) 質問紙調査結果 (抜粋)

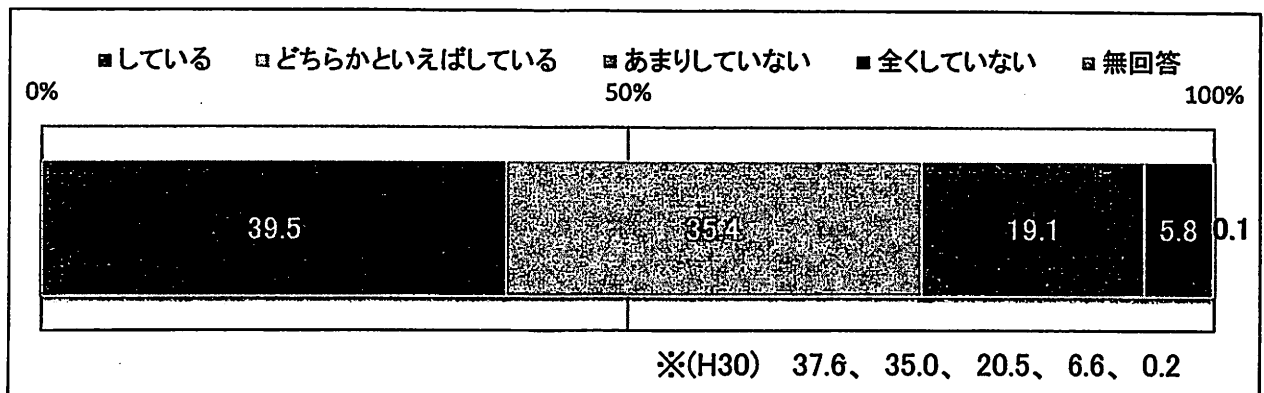
自尊意識・規範意識等に関すること 【小学校第4学年児童対象】

○自分には、よいところがある



学習に関する関心・意欲・態度 【小学校第4学年児童対象】

○自分で計画を立てて勉強している



教科等に関する指導 【教員対象】

○授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている

